

1. 日時 令和3年10月22日(金)午後6時00分～午後7時00分

2. 出席者

豊泉会長、白川副会長、和田委員、稲葉委員、小坂委員、太田委員、坂本委員、内野委員

3. 報告

1) 事業報告、事業予定について

事務局より資料1-1「歴史民俗資料館・古民家園来館者数一覧」、8月から10月までの事業報告資料1-2「歴史民俗資料館・古民家園事業報告」、11月から1月までの事業予定資料1-3「歴史民俗資料館・古民家園事業予定」に沿って報告。

コロナウイルスの感染者が増えたため、7月～9月は開館・開園はしていたが、人流を抑制する観点から、入館者の人数を制限して運営を行っている。来館者は減り、団体見学の予約もほとんど入っていない。

博物館学芸員実習生の受け入れ、体験学習手打ちうどん作り、市内文化財散歩玉川上水などは、感染症対策を行い、参加人数を制限して実施した。11月には東京文化財ウィークがあり、今年は「立川飛行場をテーマ」にした企画展、都指定文化財銅鉦鼓の展示、体験学習会では文化財散策の古村を歩くを予定している。多摩郷土誌フェアは今年も開催中止となった。

2) 埋蔵文化財調査及び調査報告書について

事務局より、8月から10月までに現地調査を行った資料3「埋蔵文化財調査報告」に沿って報告。緊急事態宣言が明け、埋蔵文化財の届出件数が増えている。試掘確認調査を2件、いずれも2日間かけて行った。1件目は向郷遺跡で行った。炉跡が1基、縄文土器・石器の欠片が350点程発見された。なお、届出の工事には影響がでないことを確認している。2件目は昭和記念公園の北側の給食調理場建設予定地で行ったが、遺物遺構は発見されなかった。

3) 国宝「石幢」の保存修理事業について

事務局より報告。9月より板石の解体を再開している。昨年は板石1枚を外すのみに留まったが、今年は残りの5枚を全て解体する予定である。1枚外れたことにより、板石の横から工具を充てることのできるため、作業のスピードは昨年より上がっている。作業を進めていく中で、内部構造も分かってきた。解体当初から、上部に鉄芯が入っていることは分かっていたが、中に詰まっているコンクリート内部の構造がどの様になっているのか予測できなかった。現在はコンクリートを削っていくなかで、鉄芯が三又に分かれて下方へ入っていることが目視できている。コンクリートは2層になっており、中心部は河原の石などが均等に混ざった非常に硬いものと、板石と接している外側の部分はモルタルのみで柔らかいものでできている。工具は石彫エアツールを主に使用しているが、中心部は非常に硬いので工具をあてる部分や、向きを試行錯誤しながら進めている。一方、モルタルはとても柔らかいので、工具が少し触れただけでボロボロと剥がれていく。

解体作業は板石についているコンクリートを剥がす上部の作業と、台石の下へ潜り柄の周りを削る下部の作業を同時進行で行っている。柄についているコンクリートがきれいに剥がれたら、そのまま垂直に持ち上げ、柄穴から板石を取り外す予定である。現在は広目天の板石を外すところであるが、下部の作業から柄石が折れていることが分かった。一見すると柄穴には板石が台石の下まで刺さっているように見えるが、実際には折れているものを接着してくっつけている。広目天の解体は10/19を予定している。板石を持ち

上げる際はチェンブロックを組み立て上に引き上げ、保存庫外に取り出し、運搬用箱にしまった後に、寺務所内に仮保管する。残りの板石についても同様の作業を行う予定である。進捗状況については情報共有として適宜報告します。

2. 議 題

1) 市指定文化財の指定について

事務局より、資料4「文化財指定に関する調査・未指定文化財の現況確認について」に沿って説明。

事務局：前回に引き続き指定候補の文化財について各所有者と連絡を取り、市指定の同意を得る交渉を行っている。コロナウイルス等の影響もあり、調査等は進んでいないが、今後も所有者の意向を確認しながら説明をしていきたい。

委員：蚕影神社の金色姫像に関して、川崎にも蚕影神社があつて機会があつたので養蚕や由緒について調べていると、山伏・修験と養蚕が深くかかわっていることが分かってきた。また、福生市の永昌院、真福寺を中心に、多摩地域に養蚕が広まり、そこから南の川崎や町田に伝わっていることが分かってきた。永昌院は蚕寺で有名です。金色姫像の所有者宮崎家は公私日記で富士講と関係していたと伝えられているので、調べた結果を後日情報提供します。

委員：金色姫像は蚕影神社以外で地域的に多く残されているのですか。

委員：金色姫像は川崎市の生田の寺院や、町田市の博物館にも像があることが知られている。多摩地域でも調査が進んでいないので、修験関係を調べればいくつもあるのではないだろうか。

委員：蚕影神社には金色姫御影の掛け軸もある。関連資料を一体として、調査検討してみてもどうかと考える。

委員：川崎に岡上というところがあつて、山伏の集落があつた。山伏と養蚕が結び付くことが分かってきている。川崎市日本民家園に蚕影山祭祠堂、社殿が祀られている。

委員：大織りについて、立川市が砂川十番組大のぼりで文化財指定しているので、H市でも文化財指定することを審議会でも検討している。

委員：昭和記念公園の彫刻はとても精密で良いものだが、劣化が著しい。保護することを考えなければならない。彫師の名前は「ゴトウ」。ゴトウ姓につく彫師の名は「トクゾウ」、「トクサブロウ」など「トク」が付くのは、許されたものしか名乗ることができない。保管状況から、文化財指定にするのであれば、保存方法の検討を同時に考える必要がある。

事務局：交渉相手先を調べていきたい。先日、保管先の昭和記念公園こもれびの里の担当者とは打合せをする機会があつたので、聞き取りや現地調査を検討していきたい。

委員：未指定文化財として市内の動植物では、平成6年『自然環境調査報告書』刊行以来、立川市では30年ほど動植物に関する調査を行っていない。都市化が加速する中で、残っている動植物は、立川市の環境対策課が担う生き物データベースを作り、一般市民から写真投稿できるようになっており、情報リストが整えられている。そういうものを利用して、現存している植物や、新たに加わった植物を確認し、市内の自然を見直す機会を作ってみてはどうですか。基礎的な調査に関しては、データベースを管理している方に協力をお願いし、市民との自然観察会を通じて、一緒に進めていくのも一考で提案します。

事務局：自然の調査方法や内容について、今後も委員と調整し検討していきたい。

3. その他 第22期で退任される豊泉会長、稲葉委員のあいさつ

次回開催予定：令和4年4月22日（金）午後6時～